

# 出生順位と性格

—女子中学生を対象として—

1007004

栗野 成美

## 【目的】

本研究では、女子中学生を対象に、出生順位が性格形成に影響を及ぼすのかを出生順位やきょうだいの性別に着目して検討し、2人きょうだいにおいては依田・飯島(1981)、奥村(2008)と比較し、3人きょうだいにおいては浜崎・依田(1985)、奥村(2008)と比較して被験者の年齢の変化や年月の変化によって性格形成に差が出るかを調査することを目的とした。また、長子において、母親と下のきょうだいからの呼ばれ方によって姉としての役割期待は異なるかを検討することを目的とした。

以上のことから4つの仮説を立てた。

- 仮説1 2人きょうだいにおいて、長子的性格、次子的性格は依田ら(1981)、奥村(2008)の結果と異なる。
- 仮説2 2人きょうだいの性別の組み合わせによる性格の差は奥村(2008)の結果と異なる。
- 仮説3 3人きょうだいにおいて、長子的性格、間子的性格、末子的性格は依田ら(1985)、奥村(2008)の結果と異なる。
- 仮説4 長子において、母親と下のきょうだいからの呼称方法によって、姉としての役割期待の感じ方は異なる。

## 【方法】

札幌市A女子中学校の学生129名を対象とし、きょうだい構成、依田ら(1981)が考案した性格特性を調査する質問項目、長子限定で母親と下のきょうだいから何と呼ばれているか、姉としての役割期待をどれほど感じているかを調査する質問紙を用いた。

## 【結果と考察】

2人きょうだいにおいて、性格特性を調査した51項目について、Pearsonの $\chi^2$ 検定を行った。その結果、次子的性格においてあてはまる

項目として「負けず嫌い」「最後までやりとおす」あてはまらない項目として、「こづかいを早く使う」が有意であった。姉妹においては、妹的性格としてあてはまる項目として「せっかち」、あてはまらない項目として「母親に甘える」が有意であった。兄妹における妹的性格において、あてはまる項目として「最後までやりとおす」が100%と最も高く、姉弟における姉的性格において、あてはまると回答した項目では「服や持ち物を気にする」が89.3%と最も高い結果となった。妹のいる姉、姉のいる妹、兄のいる妹、弟のいる姉において同様の調査を行ったところ、弟のいる姉において「おもしろいことをする」に有意な傾向がみられ、他のきょうだいと比べてあてはまらなさと回答した率が高いといった結果が得られた。3人きょうだいにおいて、中間子的性格としてあてはまる項目に「人の意見に反対」、末子的性格として「父親に甘える」が有意であった。また、長子において母親と下のきょうだいからの呼ばれ方によって姉としての役割期待の感じ方が異なるかどうかを、対応なしの一要因の分散分析を行ったところ、有意な差がみられ、「母親から名前、下のきょうだいから地位的名詞」で呼ばれる群は「母親、下のきょうだいから名前」で呼ばれる群より役割期待を強く感じるという結果が得られた。

以上の結果から、仮説1, 2, 3, 4は支持された。今回用いた質問紙の回答方法を依田ら

(1981)のように「きょうだいのどちらかに丸をつける」のではなく、奥村(2008)と同様に「他のきょうだいと比べて自分はどうか」としたこと、対象者が女子限定であったこと、依田ら(1981)の調査から30年以上経過していることが要因であると考えられる。

(指導教員 豊村 和真 教授)